



酒仙人直伝!

監修：日本酒サービス研究会・酒匠研究会連合会

お酒をめぐるイイ話

お酒をめぐるネタを酒仙人が直伝!

[Vol. 1 配信日：2017年6月23日]

お酒を飲めない人を「下戸」というワケ



(クニちゃん)
お酒を飲めない人のことを、なんで「下戸(げこ)」って言うんですか?



(酒仙人)

今から約1300年前の「大宝律令」という法律の中に、「上戸(じょうご)」「下戸」という言葉が登場するんじや。当時、青年男子が8人以上いる家を「大戸(たいこ)」、6~7人の家を「上戸」、4~5人なら「中戸」、3人以下なら「下戸」と定められて、徴税の基本とされておった。婚礼の祝いに割り当てられる酒の量も、それによって決まったんじや。

現在、酒飲みかどうかを表す「上戸」「下戸」という言葉は、この時代の言葉が基となっておる。「上戸」には「酒をたくさん飲む人」という意味もあるんじやが、より大酒飲みは「大戸」と言うこともあるのお〜。

「泣き上戸」「笑い上戸」の「上戸」という言葉は、ほかの言葉の下に付けて、酒に酔った時に出る癖を表す場合にも使うんじやよ。

酒飲みのことを「左党」「左利き」と言うのも、酒をめぐる洒落言葉の一つじや。大工はノミを左手に持つことが多いから、「ノミ」に「(酒) 飲み」をかけて、「左利き」と言えば酒飲みを指すようになったと言われておる。

酔っ払いのことを「とら」と呼ぶこともあるのは知っておるな? これはな、中世の女房詞(※)で「酒」のことを「ササ」と言うておったのじやが、その「ささ」に「笹」をかけて「笹に虎」の絵を連想するからだという説がある。そのほか、寅の刻(現在の午前4時ごろ)まで酒を飲んでいるからとする説もあるのじや。この場合、「酔っ払い」という意味が強いのお。

※女房詞(にょうぼうことば) = 室町時代初期ごろから宮中の女官たちが使った一種の隠語

◆参考・『日本酒百味百題』監修：小泉武夫(柴田書店)

【注意】

- ・記事、データ等の著作権その他一切の権利はNPO法人FBOに帰属します。
- ・記事・データ等の正確性については万全を期しておりますが、当該記事・データ等の利用により生じた不利益や問題等について当会は責任を負うものではありません。
- ・記事・データ等は予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。